

事業の概要

担当課：道路整備課

事業名	快適で安全な道づくり事業		事業主体	栃木県
事業箇所	主要地方道宇都宮鹿沼線 飯岡東工区 鹿沼市白桑田～千渡			
事業の目的、事業発案の経緯・背景	本路線は、県都宇都宮市と鹿沼市の中心市街地を結び、地域の産業活動や日常生活を支える重要な路線であるとともに、鹿沼市内においては都市計画道路3・4・202号古峯原宮通りの一部として都市の骨格を担う道路である。また、災害時には救援活動や物資輸送に利用される緊急輸送道路である。 しかしながら、本事業箇所は、自動車交通量が多く朝夕の通勤通学時間帯を中心に交通渋滞が発生しているほか、交通事故も多く発生しているなど課題が多い。 このことから、本事業箇所の4車線化を進めることで、宇都宮市と鹿沼市間の道路ネットワークを充実・強化し、安全で円滑な通行を確保するとともに、両市の連携強化と交流促進を図るものである。			
事業内容	・都市計画道路3・4・202号古峯原宮通りと整合した現道拡幅とする。（最終変更：平成25年3月） ・車線数は、計画交通量に基づき4車線とする。			
	・総延長：810m ・計画交通量：26,300台/日 ・道路区分：第3種第2級 ・車線数：4車線 ・標準幅員：25.0m（車道3.25m×4、自転車通行帯1.50m×2、中央分離帯4.00m、歩道2.50m×2）			
事業予定期間	令和4年度～令和11年度（予定） 【事業スケジュール（予定）】 用地調査：令和4年度 用地取得：令和4年度～令和7年度 工事実施：令和6年度～令和11年度	事業見込額及び内訳	総事業費	約17億円
			事業費内訳	測量設計費：約1億円 用地補償費：約6億円 工事費：約10億円
			財源内訳	国費：50% 県費：50%
事業概要図	別紙記載			
県計画への位置付け	・「県土づくりプラン2021」：重点施策「都市間の交流・連携を支える幹線道路ネットワークの充実・強化」に位置付けられている。 ・「とちぎの道路・交通ビジョン2021」：「県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化」に位置付けられている。 ・「とちぎ道づくりプログラム」：「県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化」に位置付けられている。 ・「栃木県地域防災計画」：現道が緊急輸送道路（第3次）に指定されている。 ・「宇都宮都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」：広域拠点地区の形成や周辺都市との移動や連携の促進を図る「都市間連携軸」に位置付けられている。			
他計画・他事業との関連	・「鹿沼市都市計画マスタープラン」：広域連携道路に位置付けされている。 ・主要地方道宇都宮鹿沼線 宇都宮市飯田工区 令和元年度～令和7年度（予定） ・ // 鹿沼市飯岡工区 令和元年度～令和4年度（予定） ・都市計画道路3・4・202号古峯原宮通り 鹿沼市千渡東工区（街路）平成28年度～令和4年度（予定）			

事業の評価

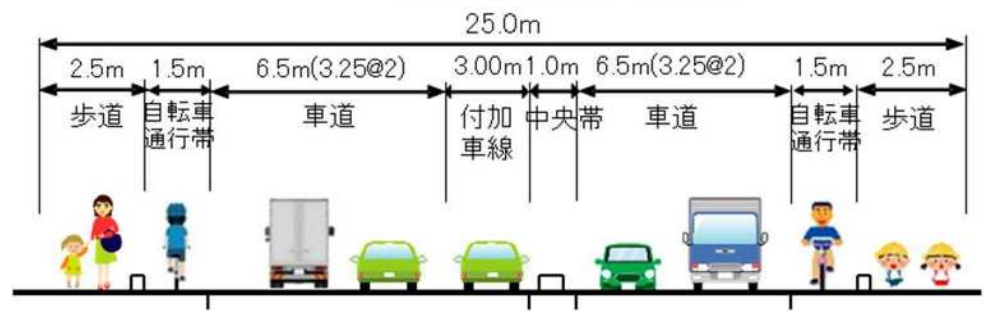
評 価 の 視 点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 鹿沼市における都市の骨格を担う道路として、平成25年3月に都市計画決定された道路である。 宇都宮市と鹿沼市間の東西連絡軸の強化を図るため、本路線の整備が必要である。 災害時の救援活動や物資輸送に資する緊急輸送道路の強化が必要である。 白桑田交差点など主要渋滞箇所における渋滞を緩和するため、交通容量の確保が必要である。 右折レーンや自転車通行帯の整備による交通事故対策が必要である。
	2. 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 本工区西側で事業中の飯岡工区及び千渡東工区(街路)が令和4年度、本工区東側で事業中の飯田工区が令和7年度に供用を予定していることから、道路ネットワークの効果を早期に発現させるため、整備に着手する必要がある。
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ルートは現道と同位置であり、都市計画道路3・4・202号古峯原宮通りと整合する計画である。
	4. 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道宇都宮鹿沼線であり、道路管理者として県が事業を実施する。
	5. 事業により予想される効果及び影響 (機能的な効果 ・経済的な効果 ・他計画、他事業への波及効果 ・環境への影響など)	<ul style="list-style-type: none"> ○投資効果 <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比(B/C) 2.3 ・総便益(B) 30.1億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもの 走行時間短縮(27.2億円)、走行経費減少(2.7億円)、交通事故減少(0.3億円) ・総費用(C) 13.1億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む ○2車線から4車線に拡幅することで交通容量が増加し、渋滞が緩和される。 ○交差点部における右折レーンや自転車通行帯の整備により、安全で円滑な通行が確保される。 ○宇都宮市と鹿沼市の連携を強化し、両市の交流が促進することで、地域経済や産業活動の活性化が図られる。 ○災害時の救援活動や物資輸送を支える緊急輸送道路としての機能が強化される。
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。 ・隣接する県有地の有効活用によりコスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)	本事業については、令和4年度より着手する。	

事業概要図 S=1:50,000



凡例	
評価箇所	■ ■ ■ ■
関連事業箇所(県)	■ ■ ■ ■
写真撮影箇所	□ →
主要渋滞箇所	○
事故危険箇所	○

【標準横断面】 (交差点部)



①朝夕を中心に渋滞（現道）

白桑田交差点西側付近



②朝夕を中心に渋滞（現道）

白桑田交差点東側付近

